

2020年 5月 27日

須賀川市議会議員 五十嵐 伸 様

請願団体

新日本婦人の会須賀川支部

支部長 片野ミチ子

住所 〒

須賀川市

TEL・FAX

紹介議員

横田 洋子

学校給食にグリホサートが入っていない国産の小麦や米粉の使用を求める請願書

【請願趣旨】

新日本婦人の会は1962年の創立以来、子どもの幸せ、平和と暮らしの向上など女性の願いの実現めざし、全国で運動している国連 NGO の女性団体です。

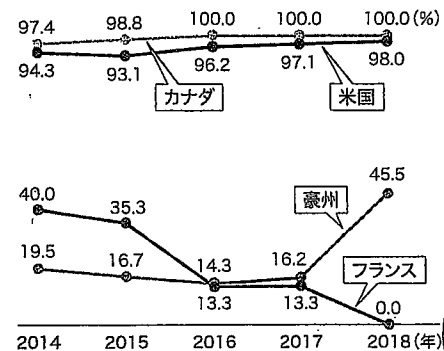
現在、日本は小麦の9割を輸入に頼り、その多くがカナダ、アメリカ、オーストラリア産小麦です。これらの国では小麦の乾燥を高め収穫効率を上げるために、収穫直前にグリホサート（除草剤）が散布されており、輸入した小麦から残留農薬が検出されています。（図①）

新日本婦人の会が輸入小麦を使った学校給食パンを分析依頼したところ、そのすべてから、同農薬が検出されました。（表①）

農薬・グリホサートは「人に対しておそらく発がん性がある」（国際がん研究機関）と警告され、さらに脳への悪影響、特に子どもへの影響が指摘されています。ラットの実験では親や次世代には影響はほぼ無いが、次々世代さらに、次の世代では、がんや生殖器の異常などの発生や、オスの精子を調べるとDNAに変異確認などの、世代を超えた影響がわかりました。

アメリカでは発がん性を問う裁判で、メーカーに320億円の賠償命令が下り、同様の判決が3件続き、現在同国では2万件近い裁判が起こっています。またルクセンブルグ

図① 小麦グリホサート検出率  
米国・カナダが多く、フランスはゼロ



出典：農水省「小麦の残留農薬等の調査結果」



表① 学校給食パンから除草剤グリホサート検出  
国産小麦使用は不検出

検査対象商品名	地域	小麦の原産地	グリホサート分析結果 (ppm)
コッペパン	関東	外国産80%、県産小麦20%	0.05
Sロール	関東	埼玉県産小麦100%	検出せず
ロールパン	関東	外国産100%	0.05
コッペパン黒糖	関西	不明	0.07
学校給食パン	九州	不明	0.08
米粉パン	九州	宮崎県内産米「ヒノヒカリ」70%、県内産小麦「ミナミノカオリ」30%	検出せず
給食パン	九州	アメリカ、カナダ	0.07
給食パン (中学校のもの)	東北	不明	0.03

農林産品分析センター調べ  
新聞「農民」2020年3月9日より抜粋転載

やチェコでは同農薬の使用禁止、ドイツも2023年までに全面禁止、ベトナムも輸入を禁止するなど、規制の動きは世界に広がっています。

ところが日本政府はこれらの世界の流れと逆行し、輸入小麦の残留値を5ppmから30ppmへ、大幅に緩和(2017年12月)しています。(表②)

他方、日本では国産小麦への収穫直前のグリホサート散布は認められていません。そのため、国産小麦からは、同農薬は検出されていません。

学校給食では栄養士、調理員の努力で、子どもたちの発達を考えた栄養バランスのとれた給食が日々提供されています。身体の成長発達段階にある子ども達の学校給食には、グリホサートが検出されていない国産の小麦や米粉を使ってください。

表② グリホサートの残留基準値(ppm)

食品	旧基準	現基準
小麦	5	30
大麦	20	30
ライ麦	0.2	30
とうもろこし	1	5
そば	0.2	30
その他の穀類	20	30
小豆類	2	10
大豆	20	20
その他の豆類	2	5

厚生労働省

2017年12月

### 【請願項目】

1. 学校給食にグリホサートが入っていない国産の小麦や米粉の使用を求めます。

請願書の添付書類 2枚

(参考資料)

新日本婦人の会須賀川支部

## グリホサート関連年表

- 2020年1月… ルクセンブルク大公国 農業省 最初のEU国となる2020年末のグリホサート禁止発表。
- 2019年12月… フランス（国立食品・環境・労働安全衛生庁）流通量の4分の3に相当する36種類のグリホサートを含む農薬の登録取り消しを発表。
- 2019年12月… オーストリア連邦政府はEUへの手続き不備として2020年のグリホサート禁止の実施を拒否。
- 2019年9月… ドイツ政府は2023年末までにグリホサートを全面禁止にする方針を決定。
- 2019年7月… イギリス、ロンドン議会は市長に対して市有地とロンドン交通局用地でのグリホサートの使用禁止を求めた。
- 2019年7月… オーストリア国民議会はグリホサートの全面禁止法案を可決。

# be report

## 家庭に広がる除草剤・殺虫剤

# 発がん性や農業被害で欧米は規制

発がん性や胎児の脳への影響が指摘されている農薬が、駐車場や道路などの除草、コバエやゴキブリの駆除、ペットのノミ取りなどに無造作に使われ、使用量が増えている。代表的なのが、グリホサートの除草剤とネオニコチノイド系の殺虫剤だ。海外では規制が強化されつつあるのに、国内の対応が甘いとされ、研究者は懸念を抱いている。

「ドイツさんからは、製造もしないし、販売もしない」という回答をいくつか聞いた。

「小樽・子どもを環境を考慮する親の会（北海道）の神崎子代表は7月、2万2千筆余の署名とともに小売業者4社にグリホサートやネオニコチノイド系製品の販売中止を要請した。その結果が今月8日、東京・永田町の衆議院議員会館で発表された。

100円ショップ最大手の「ダイソー」を展開する大創産業（広島県東広島市）は、グリホサートについて、在庫がなく次第、販売を終了し、酢の除草剤などに切り替えていくと回答した。だが、ほかの3社は「国が認め

ている」となるとして、販売を継続する意思を示したという。

グリホサートをめぐるのは、米カリフォルニア州の裁判所陪審が5月、これを使った除草剤ラウンドアップを製造したモンサントの親会社バイエルに対し、ラウンドアップが原因でがんになったと訴える夫婦に約20億（約2100億円）の支払いを命じる判決を下した。同じような裁判で昨年8月に約3億、今年3月には約8千万円の支払いを命じる判決が下された。バイエルは、米国内で1万5千件以上の訴訟が起きていると公表している。オーストラリア国民議会（下院）は7月、グリホサートの使用を禁止する法

案を可決した。欧州連合（EU）で初めての全面禁止になる可能性がある。ドイツ、イタリア、オランダでも個人使用が禁止されたり、米國やアルゼンチン、オーストラリアでは自治体で部分的に禁止されたりするなど、各国で規制の動きが広がっている。率先して販売を中止する企業も出ている。

### ヒトへの健康影響 相次ぐ研究結果

世界保健機関（WHO）の専門組織である国際がん研究機関（IARC）は2015年3月、グリホサートはヒトに対して恐らく発がん性があるとした。一方、欧州食品安全機関（EFSA）や米環境保護局（EPA）は発がん性を否定。日本の食品安全委員会も「食品を通してヒトの健康に悪影響を生じるおそれはない」という立場

だ。17年12月には小麦やそば、コマなどの残留基準値を緩和した。

健康影響をめぐる議論は続いているが、発がん性以外にも発達障害や腸内細菌の異常、生殖毒性などを指摘する研究結果が相次いでいる。国際産婦人科連合（FIGO）は7月31日、化学物質が胎盤を通過して胎児に蓄積し長期的な後遺症を引き起こす可能性があるとして、予防原則の観点から「グリホサートの使用を全世界で段階的に廃止すべきだ」との声明を発表した。

グリホサートと並んで海外と日本の対応が大きく違うのが、ネオニコチノイド系農薬だ。EUは昨年4月、イミダクロプリド、クロチアニジン、チアメトキサラムの3種の農薬の使用を禁止した。花粉媒介者として農作物生産などに大きくかかわるミツバチの大量死との関係性を認められた。胎児などへの発達神経毒性を指摘する研究結果も増えており、米國やカナダ、ブラジル、韓国なども規制を強めている。

### 日本は基準緩和 研究者から警告

だが、7種のネオニコチノイド系農薬を登録している日本は、ミツバチの大量死の「原因である可能性が高い」としながらも「残留基準を緩和する」としており、欧米に比べて規制が緩い。コバエやゴキブリの駆除剤、ガーデン用の殺虫剤、ペットのノミ取りなど、家庭でも広く使われている。

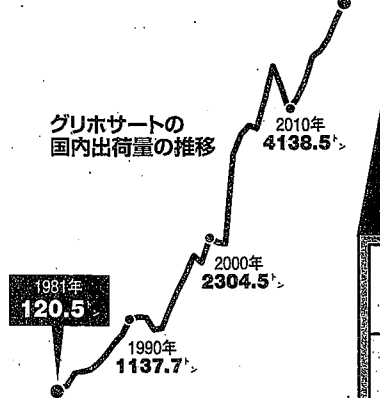
グリホサートやネオニコチノイド系農薬の国内出荷量は、この20年間に2.5倍に増えている。農水省は、使用量が多いこれらの農薬について、21年以降に新たな科学的知見に基づいて優先的に再評価する意向を示している。だが、市民団体や研究者からは「早急な対応を求める声が高まっている」。

環境脳神経科学情報センターの木村一豊田純子副代表は「日本は農薬が毒物だという認識がなく、基準値以下なら安全としているが、基準には発達神経毒性などが含まれず、安全は保障されていない。科学的にもこれらの農薬暴露が、発達障害を増やし、発がんを起すなどの実験的証拠が多数集まっている。すべて使用を中止すべきなのにしても、予防原則に基づいて規制を強化して「ハンズオフ」と指摘している。

（編集委員・石井徹）

### 身近に広がる農薬

国立環境研究所  
「化学物質データベース」から

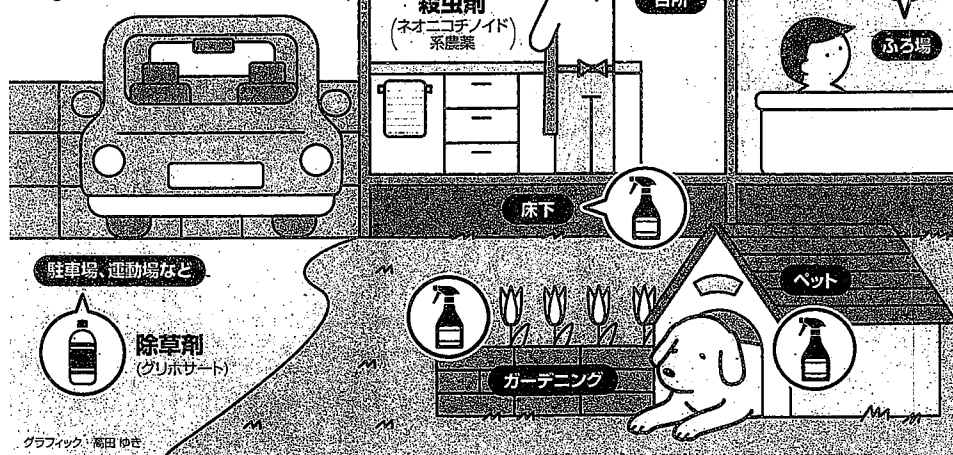


### ネオニコチノイド系農薬の国内出荷量の推移



ネオニコチノイド系農薬の規制は、欧米に比べてゆるい  
アセクミプリド残留基準値 (ppm)  
タイオキシシン・環境ホルモン対策  
国民会議決まとめ

	日本	米國	欧州
イチゴ	3.0	0.6	0.05
リンゴ	2.0	1.0	0.8
トマト	2.0	0.2	0.5
キュウリ	2.0	0.5	0.3



◆今回の「be report」は、進化するフリースタイルについて。毎月第1週は「北欧女子オーサの日本探検」です。